「ラナンキュラス」　信州の冬の宝石

「ラナンキュラス（キンポウゲ科）」は、冬から春にかけて出荷される長野県の切り花の代表格であり、バラに似た花形や花色の豊富なことが特徴です。

寒さが一段と増すこの時期、一足早い春を感じさせてくれる切り花として、テーブルフラワーやブライダルブーケの主役となって活躍します。

県内では、冬期の日照時間が豊富な、松本、諏訪地域で栽培が盛んです。

近年は、「日本産のプレミアムな切り花」として、北米や東南アジア等にも輸出されています。

●出荷期間：12 月～4 月
●生産面積・量：70 a、38 万本

フラワースピリット（松本市）のラナンキュラスは、「花のオリンピック」と称される「フロリアード 2012」「フロリアード 2022」で最高賞を受賞し、世界的に注目されています。

「啓翁桜（ケイオウザクラ）」　早春を告げる花

「啓翁桜」は、つぼみの花が開くと、うす紅色をしたボリューム感のある花が綺麗に咲きそろいます。すっきりとスプレー状に伸びた枝に花をつける「切り花」に適した桜です。

山形県が全国出荷量日本一として知られていますが、全国的に需要が多く、2～3月の農閑期に出荷できるため、耕作放棄地や遊休農地対策として長野県内でも栽培が広がりつつあります。また、桜は、一定期間低温にさらされることで開花の準備を始めます。高冷地の長野県は気温が低いことから開花の条件が揃うのが早く、啓翁桜の栽培地として適しています。

啓翁桜は早春を告げる花として年末年始や卒業、入学シーズンなどのイベント用として重宝されていますが、冬に出荷される啓翁桜は、11月中旬ころから、枝を切り出し、冷蔵施設などで保管されます。その後、出荷の時期に合わせ計画的にハウスや促成室に移し、暖められ、つぼみがピンク色になった頃に出荷されます。

●出荷期間：12 月～4 月
●生産面積・量：9ha、5.3 万本